

中央小学校だより

令和 1 年 7 月 5 日 中央小学校 学校通信



交通ルールを守って事故を防ごう！

この頃報道がありませんが、子どもの交通事故や事件のことを、連日のようにテレビや新聞で見聞きました。悲しい事故には保護者の皆様も心を痛められたことと思います。

中央小学校の子どもたちの登下校の様子もとても気になるところです。

毎日のように登下校を見守ってくださっている地域の方々、旗当番の PTA の方々には、大変感謝しています。子どもたちは「見守られている」という安心感からなのか、大人が立っていると横断歩道を渡る時、きちんと安全確認をしなかったり、下を向いて歩いたりという姿があります。大人が立っていなくても、交通ルールを守り、「安全に横断歩道を渡る」、また、「正しい自転車の乗り方ができる」技能を身に付けなければなりません。

7 月 3 日（水）に四日市市交通安全協議会指導員の「とみまつ隊」のみなさんを招いて、1・2 年、3・4 年、5・6 年と発達段階に分け、交通安全教室を実施しました。

その中で、次のようなことをわかりやすく説明してもらい、実践も交えて（実際、体育館で、道や横断歩道のエリアを作ってもらい、止まれの標識も立てていただきました）、子どもたちは交通安全について学びました。

(1) 歩道の歩き方

車道から離れたところを歩きます。集団登校では、歩道でも自転車が走っている場合があるので、列が広がらないように気を付けます。

PTA の専門部の方が足型ステッカーを貼ってくださっているところもあります。

(2) 道路の横断の仕方・横断歩道の渡り方（まず横断歩道がないか探しましょう）

①「止まれ」の標識のあるところでは、歩行者も確実に止まります。（もちろん自転車も）

②上半身を乗り出して、車が来ていないか、右、左を確認し、もう一度右を見て、手を挙げて渡ります。→手を挙げるのは 2 つの意味があります

・小さい低学年の子どもたちは手を挙げることによって大きく見え、運転手から渡っているのを見つけてもらいやすくなること。

・「私は道を渡りたい」という意思表示になること。

③車が来ていなければ、素早く渡ります。

④車が来て、手を挙げていても、車は必ず止まってくれるとは限らないので、確実に止まってくれたら、運転手さんの顔を見て、「どうぞ」という表情を見取って、手を挙げたまま素早く渡ります。

⑤わたる時に「ありがとう」と言うか「軽く会釈」をします。

→ありがとうの気持ちを伝えます。

- ⑥先頭の高学年は後ろからついてくる低学年の子が同じようにしているかどうか気にか
けながら渡ります。
→高学年がお手本になるようにしてください。

(3)自転車の乗り方

- ①ヘルメットを必ず付けます。
- ②道路の横断の仕方や、横断歩道の渡り方は歩行者と同じです。
- ③自転車横断帯を渡ります。
- ④自転車のスピードが出ていて、「止まれ」で止まらなくなならないように、スピードが出
る道でも、急いでいても、スピードをあまり出さないようにします。

- (4)車は横断している子を発見しても、すぐに止まることができないので、渡れるかどうかは
きちんと止まって、判断しなければなりません。

とみまつ隊の方のお話の中で、2つ言葉が心に残りました。

ひとつは「**運転手さんの顔を見て、確認する**」ということ。

そしてもうひとつは「**正しく横断歩道が渡れる子は、将来、立派な車のドライバーになれ
る**」ということです。歩行者の気持ちがわかる車の運転ができるということだと思います。

朝の登校指導で、横断歩道を渡っていて、車が待っていてくれるにもかかわらず、ゆっく
りゆっくり長い列をつくり車の前を横断している姿を見かけます。そんな時にきちんと手を挙げ
て、「ありがとう」の気持ちが伝えられる子になってほしいと思います。

地域や保護者の皆様、交通安全教室の内容は十分ご理解いただいているとは思いますが、子ど
もたちの安全のために、今後とも子どもたちへの見守り、時には厳しい声掛けをよろしくお願い
します。

